

乙姫城

妻木城址の会

〒509-5301

土岐市妻木町3051-1

八幡神社社務所内

TEL0572-57-6441

直前情報！「妻木の文化財展」

恒例となりました妻木町の歴史を紹介する文化財展が十一月七日(日)に開催されます。この機会に歴史散策と文化財の鑑賞をお楽しみ下さい。

また妻木町内の文化団体の展示発表会も同時に開かれます。歴史の町妻木を訪ねてみませんか。

今から四百年前、天下分け目の合戦といわれた関ヶ原の戦いに東軍徳川家康に味方し、西軍岩村城主を破った妻木雅楽介(うたのすけ)家頼の故事にならって火縄銃実演と手作りよろいによる武者行列を行います。

火縄銃は尾張田付流古式



砲術保存研究会のご協力により実施します。尾張田付流は田付兵庫助源影澄を流祖とし、尾張徳川家の御家流として代々田付兵庫助を名乗り鉄砲指南役として尾張徳川家に仕えました。尾張田付流保存研究会は砲術の保存と調査研究や啓蒙活動を目的に地元愛知県をはじめ各地で活躍しております。

手作りよろいは、ダンボールを使った軽くて丈夫なものです。子供から大人まで誰でも気軽に作れます。当日は午前中半日よろい作り教室が行われます。午後は手製のよろいを着て行列に参加できます。ご希望の方は事務局までお問い合わせ下さい。

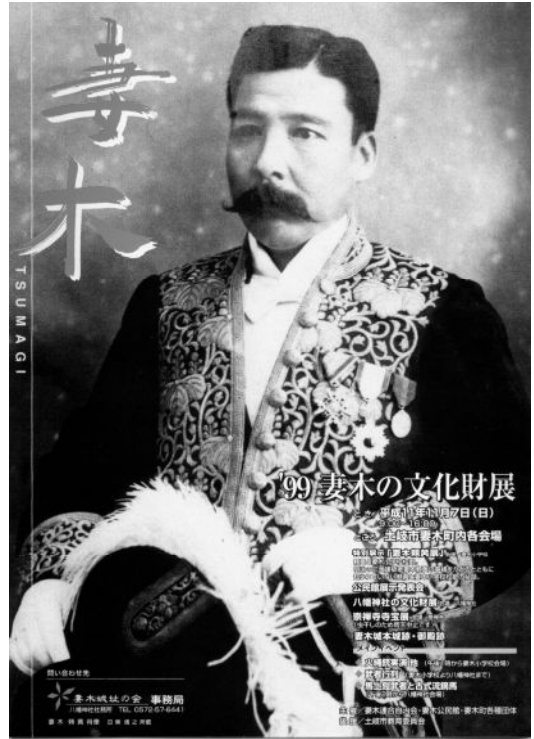


「戦国時代の武具」(妻木小学校)

長久手町在任の野村忠志氏の御協力により戦国時代の武具を展示します。

よろい武者を募集します。

手作りよろいを着て妻木軍団に入りませんか。ご希望の方は事務局までご連絡下さい。



特別展「妻木頼黄展」

明治の三大建築家の一人である妻木頼黄の事蹟をたどるとともに、頼黄と妻木町、特に妻木小学校の校歌にまつわる逸話を紹介します。

妻木頼黄は旗本上総妻木家の十一代目頼功の長男として生まれました。父頼功は上郷妻木家より養子として迎えられた人です。長崎奉行の代理を勤めるなどしましたが、頼黄が三歳の時に二十九歳の若さで亡くなりました。その後十三歳の時に母も亡くし、少年時代の頼黄は大変苦労したようです。

その後アメリカに留学し勉学に励み、帰国後東京府庁



横浜正金銀行（横浜市）国指定重要文化財

舎の設計を端緒として各地の県庁舎、裁判所などの設計や、ビール工場や銀行などの民間の建物なども多く手がけています。現在残っているものとしては東京の日本橋、横浜の横浜正金銀行（現在は神奈川県立博物館、写真の建物）があります。どちらも明治時代の代表的な建築物として国指定重要文化財になっています。

東海地方では愛知県半田市に丸三麦酒半田工場（カブトビル）の建物が残されています。

妻木町との縁も深く、妻木小学校の校歌は日東泉之進（日東陣屋）の要請により、頼黄によって贈られています。

今回の特別展では頼黄の建築家としての業績を紹介するとともに、先年妻木良郎氏より土岐市に寄贈された上総妻木氏の所蔵品のうち頼黄ゆかりの品を展示いたします。

崇禪寺の虫干し(崇禪寺・雨天の場合は中止)

崇禪寺は文和三年(一二三四)に美濃守護土岐頼貞の孫にあたる土岐明知彦九郎頼重が建立しました。妻木城主の菩提寺として代々の城主の位牌をはじめ、多くの文化財が残されています。

落ち着いた雰囲気は禅宗の修行の場所として六百年以上の歴史の重みを感じさせます。

正面に城山を望む境内は紅葉に包まれて、訪れる人の心を和ませてくれます。

八幡神社の文化財展(八幡神社)

八幡神社は妻木城主の氏神として、社殿再建の記録である棟札をはじめ多くの奉納品が残されています。主なものに妻木家頼願状、刀剣「朝露」、妻木家頼所領の甲冑などがあります。

本殿は小高い山の上に鎮座し、妻木城主の氏神にふさわしい規模を誇ります。

妻木城跡御殿跡

県史跡に指定されている妻木城は、土岐明智彦九郎が築城したと伝えられています。石垣、土塁などが残されており、秋の一日ゆつくりと散策下さい。

現在発掘調査が行われております。発掘説明会を後日予定しておりますので、あらためてご連絡いたします。

文化財展のご案内

- ・妻木頼黄展は妻木小学校会場になります。
- ・午前九時より小学校にてオープニングセレモニーを行います
- ・マップは各会場にありますのでご利用下さい。
- ・火縄銃の実演・よろい武者行列は午後一時に小学校にて始まります。その後八幡神社まで行列し、神社境内で火縄順の実演、流鏑馬の実演が行われます。

短 信

三年目をむかえた妻木城跡の学術調査が、十月初旬よりはじまりました。今回の調査では昨年礎石の発見された三の曲輪を拡大して発掘調査が行われます。また伝太鼓櫓や伝御釜屋と呼ばれる場所も調査されます。

近江山城サミットに参加

九月十九日に滋賀県米原町で滋賀県内の山城の保存運動に取り組む団体が集まってサミットが行われました。妻木城址の会もパネラーとしてお招きをいただきました。今後とも交流が出来ればと考えます。

「杜のかがり火コンサート」成功

九月十八日に開催された「杜のかがり火コンサート」には六百人ほどの多くの方に入場いただきました。当日は九月中旬とは思えぬむし暑さでしたが、かがり火に包まれた幻想的な雰囲気の中で楽しんでいただけましたと思います。

神社の杜に響くフルートの音色や山名敏晴さんや合唱団の歌声に包まれて、秋の夜は静に更けていきました。

来年は関ヶ原合戦より四百年です

天下分け目の合戦といわれた関ヶ原の戦いは慶長五年（一六〇〇）のことです。来年が四〇〇年目にあたりますので、岐阜県内でも関ヶ原町や大垣市などでイベントが予定されています。

妻木氏は東軍徳川方として、西軍岩村城主田丸氏とこの地方で激しい戦いを繰り広げました。

来年度は、四〇〇年の節目の年として事業を展開したいと思えます。アイデアがありましたらご提案

揺れる炎と音楽で幻想的世界へ



土岐市・八幡神社でかがり火コンサート

約四百年の歴史がある土岐市妻木町の八幡神社で十八日、「杜（もり）のかがり火コンサート」が開かれた。フォークシンガー、フルート奏者、合唱団が出演して会場とともに音楽を楽しんだ。

企画したのは、妻木城や戦国武将の妻木氏の研究をしている「妻木城址の会」と郷土の文化づくりを支援するボランティア「豊かなとうと流れる音楽の融合を東濃をきずこう会」で組織しました。

かがり火に浮かぶ会場で、新しい地域文化の発祥を期して開かれた「杜のかがり火コンサート」

土岐市妻木町、八幡神社

実行委員会。

「妻木城址の会」のメンバーが、「妻木氏の氏神、八幡神社に新しい文化の薫りをつくりたい」と発言したのが発端で、準備に約三カ月をかけた。この日も午前中から、会場設営を自分たちの手で行い、運営面でもほとんどを同実行委員会で行った。

コンサートに出演したのはギタリスト山名敏晴さん、フルート演奏者伊佐裕千里さん、土岐市泉町出身、土岐市少年少女合唱団の卒業生ら。

山名さんは「神社の境内での演奏は初めて。暗さの中で揺れる炎と、それぞれが奏でる音楽は、幻想的な気分させてくれたと満足そう。

岐阜新聞より